

ノースレッド

登録番号：第3117号

登録年月日：平成4年6月16日

登録者：農林水産省果樹試験場

(茨城県つくば市藤本2-1)

来

育成者：山根弘康 栗原昭夫

山田昌彦 永田賢嗣

吉永勝一 松本亮司

小沢俊治 角 利昭

平林利郎 井上真奈美

歴：「セネカ」と「キャンベル・

アーリー」の交雑実生

特 性

■栽培特性

樹勢は中位で、新梢の伸びも中位、樹冠の広がりも「キャンベル・アーリー」と同程度である。熟梢の色は赤褐色で、登熟は容易。耐寒性は強く、「キャンベル・アーリー」なみである。開花期は早く「キャンベル・アーリー」と同時期である。

自然形整枝・長梢せん定とするのがよい。短梢せん定も可能であるが、長梢せん定と比べて果房が小さくなる。ほう芽率が高く、新梢の揃いも良いので、枝梢管理はやりやすい。花振るい性があるので、摘房は実止まり後に行い着粒の良い果房を残す。10a当たりの目標収量を1,800kg、目標一房重を250~300gとして、10a当たり7,000房前後(3.3㎡当たり22~24房)着房させる。摘房の基準は、長さ1.5m以上の強い枝には2房、1~1.5mの中府な枝には1房を残す。1m未満の枝には着房させない。目標糖度は17%以上とする。

少~中程度の花振るい性があることから、「キャンベル・アーリー」なみの花穂の整形が必要である。摘粒はほとんど必要ないが軽い摘粒を行うと果粒の揃った良房が得られる。赤色系のブドウであり、着色不良を避けるため、結果過多とならないように注意し、枝梢の過繁茂を避けて棚下を明るく維持するのが良い。熟期は育成地で8月下旬、東北地方では9月上旬~下旬、北海道南部では9月下旬であり、「キャンベル・アーリー」よりもやや早い。

■果実特性

自然状態の果房は有岐円筒形であり、副穂を摘除した果房の大きさは250~300gで「キャンベル・アーリー」よりもやや小さい。やや花振るい性があり、着粒程度は「キャンベル・アーリー」なみである。果粒は円形で、4g程度の大きさで「キャンベル・アーリー」よりもやや小さい。果皮色は赤褐色ないし紫赤で、果粉が多く、果房の外観はすぐれているが、サビ果がやや発生しやすい。はく皮は容易で、果肉特性は崩壊性と塊状の間である。香気は一種の狐臭であるが、「キャンベル・アーリー」よりも穏やかな香りである。果汁の糖度は17~19%、酸含量は0.4~0.6%で、「キャンベル・アーリー」と比べて糖度は2~3%高く、酸はやや低く、食味は「キャンベル・アーリー」よりもすぐれている。果皮の厚さは「キャンベル・アーリー」よりも薄く、裂果の発生が少しみられる。棚持ちは良いほうである。常温での日持ちは5~7日で「キャンベル・アーリー」なみである。

■病虫害抵抗性

うどんこ病、べと病には強く、黒とう病と灰色かび病には中位の抵抗性で、病虫害防除は「キャンベル・アーリー」なみに行えば良い。

■地域適応性

耐寒性が強く、北海道南部から東北地方のブドウ栽培地域に適する。育成地の土壌は流紋岩系の粘質土であるが、砂土や火山灰土でも比較的良好な成績が得られており、土壌適応性は広いと考えられる。

(山根弘康)